

文献複写のプロに助けられながら

医学部 放射線医学講座 医局事務

ワタナベ ユキエ
渡邊 幸江

医局に勤務するようになって早いもので5年。この間、数多くの文献を検索し、図書館司書のみなさまには大変お世話になってきました。

思い起こせば、この5年の間には一度に100件もの文献複写を依頼された記憶がよみがえります。時間との闘いの中、懸命に一つずつ検索してはPDFで取得し、取得できないものは複写依頼。この手続きは、単純な作業ではありますが、他の業務も重なる中、いかに素早く探すが重要となってきます。司書の皆さんにアドバイスをいただきながら、今では、すっかり慣れ素早く対応できるようになりました。

自分なりにとことん検索し、これはPDFではとれないと思い、最後の最後に図書館に依頼をすると、なんと司書の方々は、いとも簡単にPDFで取得！あ～今回も負けた、完敗！さすが司書！と悔しさが感嘆へと変わります。

探している文献の情報が少なく、自分では探し出せない文献についても司書の方々は少ない情報を頼りにとことん探してくださいませ。検索方法がわからない時には、電話で丁寧に教えてくださったり、時にはPCの前で一緒に検索してくださったりすることもあります。

最近では、紙にコピーされた文献をデータにしてほしいという先生が多くいらっしゃいます。紙をデータ化する際、図表がつぶれてしまうことが懸念されます。少しでもいい状態で先生方にお渡しできるよういつも心がけています。

これからも司書の方々に手助けいただきながら、先生方の研究活動のお役にたてるよう微力ながら精一杯頑張っていきたいと思います。

私にとっての図書館とは

大学院医工農学総合教育部

生命環境学バイオサイエンスコース修士1年

タグチ エイジ
田口 瑛司

私が山梨大学に入学した当初はリニューアルされる前の図書館でした。リニューアル前の図書館は今のよう二階にあるグループディスカッションルームや、一階のラーニングコモンズ等の先端的な図書館ではなく、机と本が陳列されている一般的な図書館でした。元々図書館という空間が好きだった私は一年の頃から足しげく図書館に通っていました。それまで図書館とは友達がいる大きな声ではしゃべらず、各々が机に向かって読書をしたり勉強をしたりする静かな場所というイメージでした。それが二年生になった初めにリニューアルオープンされた図書館に行ってみて今までのイメージが崩れ去りました。

新しくなった図書館は、一階では軽い食事をとりながら談笑したり、動くメモ台付のチェアを使い人数に合わせて自分達で好きな配置をつくりながら議論を重ねたり、大型ディスプレイやプロジェクターで投影してプレゼンができるスペースとなっていました。二階は従来の本棚と机が並んでいるスペースの奥にガラス張りの壁を挟んで仕切りのない長い机が複数置かれ多人数で会話しながら勉強ができるグループミーティングルームと、横の机と仕切りがつけられ静かな空間で一人勉強に集中したい人向けのサイレントルームがあります。この新しくなった図書館は時代のニーズに応えた静と動を兼ね備えたこれまでにない最先端な図書館というイメージを受けました。

この新しい図書館は今までにない学習の可能性に満ち溢れていると私は思います。まだ私が知らない未知の機能もたくさんあるかもしれません。是非学生の皆さんはもっと図書館を利用してほしいです。